

---

# アラシのごとく！

猫耳執事

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

アラシのごとく！

### 【Nコード】

N1276BA

### 【作者名】

猫耳執事

### 【あらすじ】

サンタさん（CV 若）の部下のミスによって死んでしまった

主人公のお話

これからハヤテのごとく！の世界で頑張って生きてます！！

## プロロ・グ（前書き）

駄文です。

この小説の今後は読者の皆様しだいです。

ヒロインはヒナちゃんがいいな？

作者の更新速度は感想＋お気に入り＋評価で決まります。

## プロローグ

「……………みんな聞いてくれ、今俺の目前に変なおっさんがいるんだ。」

上から下まで赤と白のめでたそうな衣装を纏って真っ白なお髭を蓄えたおっさんがいるんだ……………見るからにサンタの格好をしたおっさんがな!!!!!!

しかも

「おっまえは死んだのだよおっ若者よ……」

「すぐ聞き覚えがある声をしてるんだ!!ド ゴン ールのセや 某魚だらけの国民的アニメのア ゴさんの声なんだっ!!」

「い……かげんにこちら話を聞きたまえ……」

「なんですか?わかも………ところであなたは誰ですか?」

「君に素う晴らしいプレゼントを贈りにきたサ……ンタさんだよお…… (キラリッ) (キラリッ) (キラリッ)」

「……とりあえず、クリスマスは過ぎてますよ?」

「そんなことはわかってるよ。君は馬鹿なのかねえ?」

「(イラッ)なら何しに来たんですか?もう新年なのでサンタなんか呼んじゃいませんよ?と言うかここ何処だよ?今すぐ家に帰せ馬鹿野郎!」

「いや、ちょっととしたミスでねえ、君の家に部下のソリが突っ込んでしまったのだよハッハッハッハ。そのソリが君に直撃してしまってねえ、君は新年早々死んでしまったわけなのだよ。その部下は今頃北極圏のどこかでトナカイに引きずりまわされているだろう。ぶるあああああっ!!」

「はあ?!何言ってるんのおm「そんな訳で、神や魔王とよく酒を飲んだりしていろいろ、こころやさしいサントさんがあ、きみに新しい人生をプレゼントしちゃうぜえ、ハイ拍手う!!」

「てめえ何わけのわか「ハイ拍手う!!」おm「ハイ拍手う!!」だから「ハイ拍手う!!」……(パチパチパチ)……死んだのは分かったけど新しい人生ってどういうことだ?!」

「か〜みちゃんとか〜おちゃんにた〜のんでみたけどよう、『流石に生き帰せれねえわ〜』(笑)』って話だから我慢してくれい。後戻りはできねえ、生前の記憶は適当に消しておくから覚悟しとけえ。お詫びといっちゃんあなんだが適当に特典盛り込んでおいてや〜るから、じゃあな若者よ〜、もういっぺん死んだときにま〜た会おう  
!~!」

シャンシャンシャンシャンシャン

「ちよ、お前らなんだよっ!!俺をソリに縛り付けんな!!はあ?もう出発?グッドラック?てめえらふざけてんのか?!安全は保障できないってどうゆうことだよ!!」カウントダウン5・4・3  
お前ら覚えとけよ?!いつかぶん殴」2・1・0トナカイ型時空突破新世代ソリ試作機 タイタニック 発射します」その名前はありえねえええええ.....」

「こ〜して少年は旅立ったのであったあ。さらば少年よあ、い〜つかまた会おう。」

## プロロ・グ（後書き）

感想待ってます+あなたの一番好きなキャラクターに対する一言も待ってます

そういえば原作で自分の好きなアニメ（ゲームだったっけ？）のキャラが違う二人（駄目主人と書記）が言い争うってシーンあったっけ・・・

## 第一話 紅いサンタクロース（前書き）

本当のサンタは黒色の衣装を着ていたそうです。

今の赤白サンタは、コーラのイメージキャラクターとして採用された際の物が世界に広まって標準化してしまったそうです。

## 第一話 紅いサンタクロース

（十六年前）

父「ハヤテだ、この子の名前はハヤテ。ハヤテと名づけよう」

母「まあいい名前。でも、どうしてなの？」

父「そんなの決まってるじゃないか母さん。借金取りから疾風はやてのように逃げられる強い子に育てほしいからだよ」

（赤ちゃんハヤテ、あきれて泣き止む）

母「ならもう一人のこの子はどうするの？」

父「それももう決めてあるさ。ハヤテの双子の弟に当たるこの子の名前はアラシ、綾崎アラシさ」

母「ハヤテと同じでいい名前ね。で、どうしてなの？」

父「簡単だよ母さん。借金取りを嵐あらいのように叩きのめしてくれる



その昔、夢に出てきたサンタに聞いた。

「ねえサンタさん……どうして僕達にプレゼントを持ってきてくれないの？」

『それはね、お前達の家がビンボーだからだよ。』

「……!! (ガーン)」

サンタは噂以上に正直な奴だった。

「ええ!?!?で……でもそれじゃ僕達はもうしたらいいのさ!?!?アラシにゲーム買ってあげるって言っちゃったのに!?!」

『働け少年!?!「働かざる物喰うべからず」欲しい物は自分でどうにかしろ。だが信じる……最後に笑うのはきっと……』

・ひたむきでマジメな奴だから・・・それでもお前達にはプレゼントはやらないけどn《てめえー！！まぢやがれえー！！》  
！・・・厄介な奴が来よったのう」

《ハヤテ！！こんな奴のことなんて聞かなくていい！！こいつは今すぐ俺が殺る！！死ね！このクソサンタ！！積年の恨みここで晴らしてやる！！》

『ちよ、おま、去年よりもパワーアップしてね！？というか自分の兄の夢に乱入ってどんだけだよ？！』

《黙れ！！お前が実行犯だって事を知った後から俺は毎日鍛錬を欠かさなかったんだよ！！某公式チートさんも言ってたろうが！「気合で何とかなる」って！！》

「（ポカーン）」

僕はこの後、自分の双子の弟がサンタを血まみれになるまでポッコポッコにする様子をただただ見ていることしかできなかった。

《ふう、これでいろいろスッキリしたぜ！》

弟のものすごくいい笑顔がとても印象的だった。

**第二話 僕らとヤッサンのランデブー（前書き）**

お気に入りはまだ三件だと・・・・・・・・

とりあえず三名の皆様ありがとうゴザイマス

総アクセス数が200を満たさないこの現実・・・・・・・・orzガクッ

## 第二話 僕らとヤッサンのランデブー

a r a s s i S I D E

生まれたときから前世の知識を完全に覚えていた僕は、幼児ゆえの羞恥プレイを乗り切り、幼い頃から夢に出てきた仇をぶん殴り（ともつらい修行をしたことは言うまでもない）、自分の親の破綻振りを思い知らされながら生きてきた。

今になってはサンタからもらった特典とやらにとっても感謝している。

そんな僕が新しい生を受けてから早16年……

今、とても焦っていた

「迂闊だった！！都内から出れば流石にばれないだろうと思っただのに！！」

県外の有名な万屋マンヤへ決して万屋銀 なんて名前じゃないからなっ！！」にアルバイトとして勤めていた僕は自分の考えの甘さを後悔していた

「これじゃ年が越せないよ！！まさか職場に押しかけて子供の給料

騙し取っていくなんて!!」

せつかく家から車で四時間はかかるような遠い職場を探したって言うのに、それを見つけ出して「急に祖母の入院がしてしまつて・・・アラシにはもう言ってますからどうか今月分の給料前借させてくれませんか？」なんて言つて数十万全額持つていくなんて・・・

しかも年齢を偽つて働いていたことまでばらして行つたせいで社員さんからは「流石に高校生をこのまま働かせるわけには行かないから・・・ちゃんと卒業したらぜひこの会社に来てね!!」つて言われて・・・気持ちは嬉しいですけど今お金があるんですよ!!」

『もし両親が借金してた場合、返済に充てるための貯金』を下ろすしかないか・・・

「とりあえず、ハヤテと相談しないと。ハヤテ、帰ってきてる?」  
ガラツ」



そう言つてアラシはどこかに行つてしまった……いつの間に貯金してたんだ？

それはさて置き……あのタイプのヤクザは一億五千万なんて金額の借金を絶対見逃すわけがない！！

綾崎家の双子は両方とも長年の経験からどのタイプのヤクザかを一目で見分けられるというできれば一生目覚めて欲しくない能力を持っていた！！

幾らアラシでも一億五千万なんて金額を貯金してるはずがないし、そんなはした金持つて行つても臓器を売られてしまふのは確実！！

僕らみたいな人間が……てつとり早く一億五千万作るには……  
……それこそ強盗か身代金目的の誘拐くらい……

こうして少年は勝手に一人で思考を突っ走らせて悪の道へ進もうと  
していったのであったあ（ＣＶ・本）

**第三話 ロリコンに育てたつもりはありませんっ！！（前書き）**

少し評価が増えて嬉しいです！！

### 第三話 ロリコンに育てたつもりはありませんっ！！

a r a s i S I D E

無事に通帳から全額下ろすことができた僕は、ハヤテとの待ち合わせ場所である負け犬公園（嘘じゃないよ！！）に急ぎました。

すると

「人の獲物に手を出すなあ！！ネロの命日に（本日は12/24）ナンパなんて！！お前らどこのパトラッシュだ！！帰る家がある人はとっとと家に帰れ！！」

大声で意味のわからないことをほざいている兄がいました……

まあ、小さい少女をかばっての行動だったみたいで、あっコートを貸してあげるなんて親切ですね？身内としては優しい子に育ってく

れて嬉しいかぎりです。

ですが

「僕と……付き合ってくれないか？」

「へ？」

ロリコンに育てた覚えはありませんっ！！

「僕は……（人質として）君が欲しいんだ。」

今までそんな様子はなかったのに……兄をこの手で始末しないといけなくなるなんて……

「命がけさ……一目見た瞬間から……君を……君を（人質として）さらうと決めていた」

「はい、ちよ〜とこっちに来ようか？ハヤテ君？（ギリギリ） そのとっても可愛いお嬢さんはちよ〜と待っててね〜？あ、あと君のお家の電話番号も教えてくれる？」

「かつ可愛い／＼／．．．わ．．．わかった．．．」

「じゃあ、ちよ〜と待っててね〜．．．オラア！早く来い性犯罪者！！」

「ち、違っんだ！これはちよ〜と魔が．．．って性犯罪者！？僕はただ身代金を．．．」

「．．．今ならまだ未遂で済むから．．．警察んと、公衆電話発見！〜とりあえず、保護者の方に連絡を．．．「きゃー！〜雪で滑ってー！〜そこをどいてくださーい！」はい？」

目の前には迫り来る自転車が．．．ドコンッ！〜

「あ．．．お．．．う．．．げふ。（バタ．．．）」「

こうして少年達の人生は、幕を閉じたのであったあ（CV、本でお送りしております）

「あの……ごめんなさい……だ、大丈夫ですか？」

「……」

「……生存能力は黒いG並みの少年達なのであったあ（CV、若でお送りしていますっばあ）」

**第四話 運命は英語で言うとデステイニー（前書き）**

お気に入りが入りが9件になりました!!

ありがとうございます!!

## 第四話 運命は英語で言うとデステイニー

a r a s s i S I D E

「あ……お……う……げふ。(バタ……)」

「あ……ごめんなさい……だ、大丈夫ですか？」

「ててて……」「」

ハヤテを抱えて避けることくらいはできたけど……あのタイミングで来られると避けるわけにはいかないじゃないですか、避けたらこの女性が怪我をしてしまうかもしれないかもしれませんでしたし

「あ……お医者さん呼びましょうか？」

「……」

綺麗な人ですね……今まで見た女性の中でも1、2を争うような……

・・・って完全にハヤテは見とれちゃってますね？

「あの・・・体は？」

「体がどうかしましたか？（スクツ）」

「（・・・）えつと・・・」

「ご心配なく。頑丈だけが取り得ですから。」

「（・・・）では、そちらの方は・・・」

「ああ、ぜんぜん大丈夫ですよ？コレでも兄よりは丈夫ですから。」

「あら、ご兄弟だったんですか？それは気づきませんでした。」

「（お・・・驚いたよパトラッシュ・・・世の中にはこんなキラキラな人がいるんだよ・・・お前は犬だからわかんないだろうけど。）」

「（ハヤテは今絶対変なこと考えてんだろーな・・・）一応双子な



~~~~~

「(なんて嬉しい展開に……せつかくのクリスマスだし……  
やっぱ……)」

「ジトーーー(ハヤテの奴……絶対へんなこと考えてんだろうな……  
ハア……)」

「(うーん……本当に大丈夫かしら……)」

「……で、その子の特徴は？性別とか、来ている服の色とか、年齢とか……」

「女の子を探しているんです。13歳になるちっちゃい女の子なんですけど……」

「もしかして……パーティードレスとか着てませんでした？髪型はツインテールで……」

「そうなんです！あの世間知らずだから……誘拐犯にだまされてヒョイヒョイついて行かないか心配で……って心当たりがあるのですか？」

「はい、ちょうど今ご自宅に電話w「そいつ!!!」「ゴフウ!!!ハ、ハヤテ・・・貴様・・・ガクッ」

「（借金を返すためにもここで失敗するわけにはいかないんだ!!）悪いですけど・・・知りませんよ・・・（誘拐する）予定がありますから僕たちはこのへんで・・・」

「そ、そうですか（弟さんがいきなり倒れかけたけど・・・大丈夫かしら?）・・・もう少し探してみます・・・あ!!あの・・・ちよっと待って。」

「はい?（フワッ）・・・え?」

「こんな寒い夜にそんな薄着でいると・・・風邪を引いちゃいますよ・・・?」

「・・・（じわっ）（えぐっ）・・・」

「え?」

「うああああ・・・（ポロポロポロ）」



第五話 時速80キロ(前書き)

日刊ランキング乗れば……

お気に入りも増えるはず!!

と言っことで頑張ります!!!

あと、一話あたりの長さを長くしたほうがいいのか？

第五話 時速80キロ

「こんな寒い夜にそんな薄着でいると・・・風邪を引いちゃいますよ・・・?」

「・・・(じわっ)(えぐっ)・・・」

「え?」

「うああああ・・・。(ポロポロポロ)」

「ええ?え?え!?!あの・・・私何か悪いことでも・・・!?!」

「じぶっじぶっ!?!・・・ハヤテ!お前いきなり殴りやがっ・・・何この状況??」

「あの!?!その女の子ですけど・・・実は!?!」

『誰か――――!?!!』

『ぐっ!!何をする!!離せ!!』

『うるせえ!!ちっ!!大人しくしろ!!』

『くっ!!離せ!!離せ!!』

ボタン

ブロロロロ

「.....」

「.....」

「目の前で誘拐されてったよあの子.....」

「大変!!あの子ったら!!本当に誘拐されてる!!!!どっしまじよ  
どっしまじよ!!?と.....とりあえず警察を.....!!!!」

「……自転車……ちょっとお借りしますよ。あと警察に連絡を……」

「え？ちよ……君!？」

「ご心配なく。僕が必ず追いついて、あの子を助けてみせます。」

「で……でも、相手は車よ!!!そんな自転車なんかじゃ……絶対に追いつけるわけが  
（ゴツ）ない……  
……え？」

「ハヤテの奴いつもの二倍くらい飛ばしてるな〜?じゃあ、警察はお願いします!！」

「へ?君は?(ギョオツ!!!)……人間辞めてませんか?」

この二次創作の主人公は決して人間辞めてるわけではありません、

あ  
( 一度死んじゃってますけどお ) C V ・ w a k a o t o o ですけどば

第五話 時速80キロ（後書き）

日刊ランキングに乗ってもお気に入りが増えなかったら・・・

ガクブルガクブル・・・

第六話 そのニット帽はハゲを隠すため・・・

「まったくこうもあっさり誘拐できるとはな!!」

「一人になってくれて助かったぜ!!」

「……………(怒)」

「ところでアニキ、先程から人質が恐ろしい殺意を持った目で睨んできているのだが……………」

「気にするな!!」

「おい、その馬鹿二人……………お前達に少し頼みたいことがあるのだが……………」

「ふはははは!!何だ小娘!?一得が泣き叫んだって無駄だぜ!!」

「こっちは借金で生きるか死ぬかの瀬戸際なんだ!!ちょっと大人しくしてもらおうか!!」

「空気が汚れるから、呼吸をやめてくれないか？環境破壊だぞ。大切にしろよ、地球は。」

「……………」

「……………このガキ!!」

「まあ、待て!!人質殺したら元も子もねえ!!まだそいつの身元わかってねーんだから。それとてめえも……………あんまりナメた口は利くなよ!!こちとら博打で作った借金のせいで、危ねーチワワに臓器狙われてる身だ……………だからオレ達を怒らせると……………少々痛い目見る事になるぜ。」

「だから……………呼吸するなと言ったる？ハゲ!!」

「!!!!!!」

「……………」

「つーかお前も、その馬鹿丸出しのグラスンはどこのファッションリーダー気取りだ？それともあれか？宗教か？馬鹿の神様を光臨させる儀式の途中なのか？」

「てめえ、アニキのハゲは馬鹿にしても、グラスンだけは許せねえ  
—————!!!」

「ばっ!! 誰もハゲてねえーよ!!」

「こつなりゃ大人を馬鹿にするとどうなるか、身体に教えてやるぜ  
!!」

「え!?! 弟よ!! いつからそんな子供好きに……」

ドカア! ミシィ!!

「ち……近寄るな変態……それ以上近づいたら……人を呼  
ぶぞ馬鹿者!!」

「はっ!! 馬鹿はお前だ!! 小娘!! 時速80キロ以上でぶつとば  
す車に、呼べば来る奴がいるとも思っのか!?!」

「いるさ!! 命がけで私をさらうと誓った。だから呼べば来るさ!  
!!」

「だったら今すぐ呼んでみやがれ!!」

ハヤテ!!

ゴウツ!!!!

「!!なに!!」

ズガガガガ!!

ギツ!!

「おい、この悪党ども!!おとなしくその子をかえ

「おい!!ハヤテ危な

ドガア!!!!!!!!

## 第七話 やり残したこと

「いるさー！命がけで私をさらうと誓った。だから呼べば来るさー！」

「だったら今すぐ呼んでみやがれー！」

ハヤテ！

ゴウツ！！

「！！なにー！！」

ズガガガガガ！

ギツ！！

「おい、この悪党どもー！おとなしくその子をかえ

「おい！！ハヤテ危な

ドガア!!!!!!!!!!

「あつ!!アニキ!!」

「っせえ!!いきなり目の前に出てくる奴が悪いんだよ!!」

「おい……お前達!!よくも……よくも二人を!!」

a r a s i S I D E

「おい、この悪党ども!!おとなしくその子をかえ

「おい!!ハヤテ危な

ドガア!!!!!!!!!!

ハヤテに少し遅れて誘拐犯の車に追いついたのはいいけど……

見事に轢かれたなあ・・・ハヤテが勝手に飛び込むから・・・

地面に落ちるまえにキャッチするのはいいけど・・・血でベッタリになるな・・・仕方ないか・・・ってんん？？

クルクルクル・・・ゴッ！！バンッ！！

「あ~~~~~悪いんだけど・・・その子を僕に・・・返してくれる？」

「「は・・・はい・・・」」

・・・心配なかったか・・・血の残量以外は・・・

ウ~~~~ファンファンファンファン

警察も来たし、誘拐犯は任せてハヤテの手当てを……

「おい、馬鹿アニキ。さっさと傷見せる。止血すつから」

「ああ、ごめんねアラシ……」

「おい!!お前その傷」

「あ……よかつた無事だった？」

「ん……うん……私はね……」

「君が無事で……本当に良かった……」

「またお礼しなきゃな。／＼／」

「だったら……今度は僕らの……新しい仕事でも……見つけて  
おつとつ（ドスツ）グフウ!!ハヤテ……  
お前……オレに恨みでも……ガクッ」

「え!?!お……おい!!」

「ナギ！！」

「おお！！マリア！！そいつらの応急手当を頼む！！私のケータイを！！」

「へ？え、え」と・・・

薄れていく意識の中でさっきのお姉さんの声を聞いた気がした・・・

## 第七話 やり残したこと（後書き）

「（ピッ）クラウドス、私だ。位置はわかるな？大至急医療班を手配してくれ。1分以内だ。」

「あの……とりあえず見た目ほどひどいケガではなさそうですよ。弟さんの方は傷一つありませんし……」

「な、なにい!!」

この作品の主人公は某公式チートさんと同等の頑丈さで御座います  
う（CV・NW）

## 第八話 お風呂にはロマンが詰まっている

「この男たちを……私の新しい執事にする。」

「……………えっと、話の流れがよく理解できないのですが……………」

「ま……命の恩人の頼みというのもあるが……なんとなく言  
うか、その……そっちの男に告白されたんだ。さつき公園で  
……とても情熱的に……『君をさらいたい』とかなんとかか  
……こっちの男も……私のことを……とっ……とつても  
可愛い……お嬢さんって……（カアアア／／／／）」

「はあ!？」

\*\*\*\*\*

「ご兄弟の兄の方はまあ確かに、頭を相当激しく打ったようですが、  
命に別状はありませんよ、命には……おそらく日ごろから  
かなりしっかり鍛えていたのでしょう。驚異的な頑丈さですよ……  
頭は元から悪そうですし、顔も貧相ですが……弟さんの  
方は……本当に時速80キロの車に轢かれたのか？ってくら  
いなんともありません。お兄さんよりもさらに鍛えていたのでは  
うね……彼はもう私達と同じ人間なのか怪しいくらいです  
よ。気を失った原因はただの睡眠不足でしょう。最近すっかり寝て  
いなかったんじゃないですかね？まあ、何かあれば呼んでください。」

「はい先生、ありがとうございました。」

「で？どつどついきさつがあつたんですか？」

「何が？」

「何がって……あのご兄弟とのいきさつですよ。お兄さんは自  
転車で車に追いついたり、その車に轢かれても命に別状はなかった

り・・・弟さんは走って車に追いついてお兄さん同様轢かれて無傷  
だったり・・・もはや人にカテゴリイされるのかわからないと思  
うんですけど。」

「そりゃあ私の執事になる兄弟だ。きっと体は新造細胞とかででき  
ているに違いない!!」

「いいんですか、人間じゃなくて?」

~~~~~ナギがマリアに事情説明中~~~~~

「ま・・・概ねナギの方の事情は理解しました。あの方達が起きたら  
知らせますから自室にいて下さい。」

「うむ、わかった。とにかくあいつらを私の執事にするから。」

ボタンッ

「(おれ).....どうしたものでしょうか.....」

「う、うゝん．．．ここはどこだ？」

目の前にはものツすごく豪華な調度品の数々が．．．

「ここは．．．もしかして天国．．．な訳ないな。もう一度死んだら確実にあのクソサンタの元に行くはずだし、もとより怪我なんかしてないしな。．．．と言うことはあのパーティードレスのお嬢さんの家と言うのが最有力か．．．とりあえずハヤテが何か起こす前に見つけ出さないと、お風呂で何か起こしそうな気がするし．．．．．」

この小説の主人公はよゝゝゝく！！兄のことを理解しております  
う ( C V W )

ガチャ

「とりあえず誰か人を見つけてハヤテの事を聞かないと。．．．．．  
．．．こっちのほうから人の気配がする。」

廊下に出て人の気配がするほうへ向かって行く。

それにしても……この家……いや、屋敷はとても広い割りに人の気配が少ないな？

一番近い人の元に着くまでに一分は掛かりそうだ。

「（あつ人がいる！）あの……？」

「ムウ？誰かな？この三千院の屋敷を無断でウロつく変質者は……」

「へ？」

このおじさんいきなり何を言ってるんだ？

「成敗してくれる……！喰らうが良い……！クラウドスキ……ック！」

「はいい……？」『気合防御』……！

ガキイン!!

「その身のこなし・・・只者ではないな?・・・お前は誰だ?」

~~~~~状況説明中~~~~~

「先程お嬢様が運ばれてきた方でしたか。こ、これは失礼しました。このたびはお嬢様を助けていただきありがとうございます。あと、お兄様のお部屋は申し訳ありませんが私は存じ上げておりません」

「そうですか・・・わかりました、とりあえず部屋に戻っておきます。これ以上動き回ってすれ違いになってしまったら大変です」

「申し訳ありません。早急に対処しますので・・・」

「いえいえ良いんです。兄は少しに抜けているところがあるので心配だったからです。」

「いえ、お嬢様からは客人として迎えるように申し付かっておりま

す。確認してきますのでこの部屋でお待ちになっていて下さい、すぐに使いのものを出しますので。」

「そうですね……ならお願いします。」

ガチャ

ボタン

「綾崎アラシ……あの身のこなし……姫神の公認に最適かも知れんな？考えておこう。」

こうしてアラシはこの屋敷の執事長クラウドに認められたのであった。

~~~~~その頃ハヤテは~~~~~

「……それにしても、本当に頑丈なんですね……体……

」

「へ？」

「だって……あんなに激しく車にひかれたのに……命に別状はないといえ、深い傷を負っているのにお風呂に入るなんて……」

「……………」

「普通だったら、傷口が開いちゃいますよ〜」

「……………」

「……………」

「ゴフアッ!!--!!」

「キヤアアアア!!--!!」

大浴場で今度こそ本当に死に掛けていたらしい

## 第八話 お風呂にはロマンが詰まっている（後書き）

なぜ、ナギが誘拐されたときにハヤテしか呼ばなかったのかと言いますと、ただ単に名前を知らなかっただけなんです。

請求書の裏にはハヤテの名前しかなかったのです。

アラシはもともと

「クリスマスプレゼントなんて要らない！！（サンタが嫌いなため）

」

と言っていたのでこうなりました。

## 第九話 自白 自爆

h a y a t e S I D E

ああ・・・今度こそ本当に死んだな・・・あんな深い傷を負ったのに今の状況を夢と勘違いしてお風呂に入っちゃうなんて・・・

いや・・・もしかしてこれは死ぬ前に神様が見せてくれた夢なのかな？

アラシには悪いけど・・・目を開けば今度こそ・・・ネロとパトラッシュがいる天国で・・・

「さっさと起きろ、このバカ兄貴!! (ドスツ!!)」

「ガフウ!! ア、アラシ・・・僕は死んだはずじゃ・・・?」

「お目覚めですか? 綾先ハヤテ君?」

「あ・・・あなたは・・・さっきお風呂場で・・・」

「ずつと!!お屋敷に運ばれてからずつと寝てましたが大丈夫ですか?」

「」「」「」「」「」

「僕……ずつと寝てましたか?」

「もちろん!!ずつと寝てましたよ!!」

「(ジィ~~~~~)」

「そうか……じゃあやっぱり……あれは夢だったんだ。ん?あれ……?それにしてもなんでこんなにフトンが濡れて……」

「!!ね……寝汗ですよ寝汗!!ハヤテ君、すごくうなされていましたから。」

「(~~~~~ジィ)」

「……さっきからどうしてアラシはそんな目で僕を見るの？」

「いや〜べつつに〜？予感が当たったんだな〜って思ってただけだから気にしないで？(ジツト〜〜〜)」

「ま、まあいいけど……あ、でもさっきからどうしてメイドさんは僕の名を？……ていうか、「こじこじ」ですか？」

「え〜〜と……」

〜〜〜説明中〜〜〜

「ハヤテ君の名前はこちらから……悪いとは思いましたが……中を拝見させていただきました。」

「あ……」

「しかし大変な状況のようですね。」

「いやあ、たいしたことないですよ……アラシもいることです」

し。」

「それは頼もしいですね。ところでハヤテ君、お嬢様が来る前に少しお話したいことがあるのですが……その……先程のお嬢様との公園での一件について……」

「(ピキッ)」

「(これはフォローが必要になりそうだな……)」

「おらつとかどつとか言っただけ……」

「すみません!!すみません!!誘拐なんて二度と

……!!」

「……え?…誘拐?」

「……!!(はっ!!)」

自由

隠していたことを自分から打ち明けること。

自爆

今のコイツのような状況。

「ええっち……少しお話聞かせてもらえますか？」

「は……はい……」

その後被告の弁明は30分以上続いたという……

「はあ~~~~、この馬鹿は……全く……」

第九話 自白 自爆（後書き）

感想、評価お願いします！！

## 第十話 カラ回る想い（前書き）

作者帰宅後……

「ふ〜んふ〜んふ〜ん（ポチツイ〜ン）……感想の確認し  
ないと……ん？…んん！？ひよ……評価がすごいことにな  
ってるー!」

日刊ランキング66位に載ってました……

ありがとうございます……!!

## 第十話 カラ回る想い

a r a s i s I D E

「……なるほど。ハヤテ君達の方の事情は理解しました。」

「その……お嬢さまのことを知らないとか、嘘をついた事も謝りますから……どうか……この件についてはどうか見逃してほしいというか……」

「本当は僕がご自宅に電話する直前だったんです。迷子だって言うことはすぐにわかりましたから……兄も魔が差してしまっただけなんです。どうか、見逃してもらえませんか……？」

「いやまあ確かに……人は仕方なく嘘をつくというのもありますし……」

まったく……ハヤテが最初から誘拐なんて考えなきゃこんな事にならなかったのに……  
でもどうにか見逃してもらえそうで助かった……

「と言うか実は……ハヤテ君の『さらづ』とかどうとかというセリフとアラシ君の『可愛いお嬢さん』というセリフを……あの子がですね」

「おおなんだ、もう起きていたのか。」

「あ……」

「どうだ？体の具合は？」

「うん……もう平気……ありがとう。」

「ハヤテはともかく僕はただの寝不足みだったからもう大丈夫だよ。」

「でも……さつきはゴメン。公園で……あんなこと（誘拐未遂）……」

「僕も……もっと（兄を）抑えられたら良かったんだけど……」

「ん……いやその……（生まれて初めての愛の告白……」

しかも二人同時から・・・（驚いたけど・・・嫌ではなかったし・・・ただ私達は互いの事をよく知らないから・・・やっぱりすぐにつてのはよくないというか・・・どちらかを選べつて言われても選べないつていうか・・・）

「・・・・・・・・（あれ〜？この子達見事に誤解しまくつてませんか〜？これは・・・・・・・・どうしましょう・・・・・・・・）」

「うん・・・・・・・・そうだね・・・（誘拐未遂の罪悪感）」

「たしかにそのとおりだと思う・・・（兄を未遂とはいえ止められなかった罪悪感）」

「で・・・・・・・・私もあれから考えたのだが・・・・・・・・お前達、仕事探していただろう？」

「え？う、うん・・・・・・・・」

「だったらこの家で・・・・・・・・私の執事をやらないか!？」

「・・・・・・・・執事？」

「あの、お嬢さま・・・そついうのはよく事情を聞いてからの方が・・・」

「けど、姫神の後任は必要だぞ。姫神の後任がないから誘拐とかされるわけだし・・・!!」

「執事・・・」

こんな僕達に・・・住み込みの仕事をくれるなんて・・・なんて優しいんだ・・・

「でもハヤテ君とアラシ君は・・・執事ってどんな仕事かもわからないな」

「やります!!」

「お任せ下さいお嬢さま!!何があろうと僕らが命をかけて・・・あなたをお守りいたします!!」

「そのとおりです!!たとえテロリストに狙われてもお嬢さまを無傷で守り通して見せます!!」

「ば……ばか……マリアの前で照れるような事を言つな  
…」

「(ど)……どうしましょ……どうしましょ……この天然さん達  
は……)」

こうしてただ一人事情を理解しているメイドさん以外は、全くもつ  
て不毛な方向にカラ回るのであつたあ……

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1276ba/>

---

アラシのごとく！

2012年1月6日19時51分発行